

論文テーマ

カーボン・ニュートラル（CN）経営戦略

論文の主旨

経営者がカーボン・ニュートラル（以下、CN）を単なる省エネの問題でなく、企業経営の未来を左右する経営戦略ととらえる必要性、および CN 経営戦略（以下、CN 戦略）を策定する方法を事例をあげて本論文で論じる。

我が国及び企業は、2021 年になって CN 戦略を策定し、実行計画に沿って行動しなければならなくなっている。CN というバスにギリギリで乗り込んだ結果、我が国の CN のための温室効果ガス削減目標率が世界で合意しつつある 2.0℃（または 1.5℃）上昇に抑える目標レベルになった。

このような遅れを招いたのは、我が国及び企業で信じられていた「省エネ先進国」という自負である。省エネ技術及び石油資源への依存を減らす“低炭素”では、2000 年代以前は、我が国は世界をリードしていたのは事実である。

しかし、我が国が経済大国と誇っていた 1990 年代に、自らリードして合意した京都議定書の排出量 6 %削減目標を達成したものの、実は低炭素のみでは真水でそのレベルの削減はできなかったことが判明している。同時に、世界で進行していたエネルギーにおけるイノベーションは大きく遅れ、経済も停滞した。

こういった現実を踏まえ、企業は自らの CN 戦略を策定するために、以下の準備をする

1.利害関係者のニーズ把握

取引先や自治体など利害関係者のうち、どれを重視し、どのようなニーズ、たとえば、温室効果ガス排出量の開示や削減目標設定などに応えるかを明確にする

2.CN 戦略の以下の 5 つのアプローチを理解する

排出量算定、運用改善による省エネ、設備投資による省エネ、再生可能エネルギー利用、温室効果ガス吸収やカーボンリサイクルのイノベーション

以上の準備作業の次に、CN 戦略を策定し、具体策を実行する

3.CN 戦略の方向性評価を行う

上記のアプローチのうち、どれが自社に適合しているかを評価する

4.以下の 4 つの戦略から自社の戦略を選択し、実行計画を作る

総動員戦略、省エネ投資先行戦略、再エネ先行戦略、イノベーション戦略

発表者の紹介

氏 名	梶 川 達 也 主席コンサルタント コンサルティング事業部
専門分野	温室効果ガス排出量算定・削減、省エネ診断、MFCA（原材料ロス削減による CO2 排出量削減）コンサルティングなど
コンサルティング歴	自動車部品製造業、産業機械製造業、廃棄物処理業、教育などのサービス業を中心に多数の企業の省エネ・CO2 削減を支援